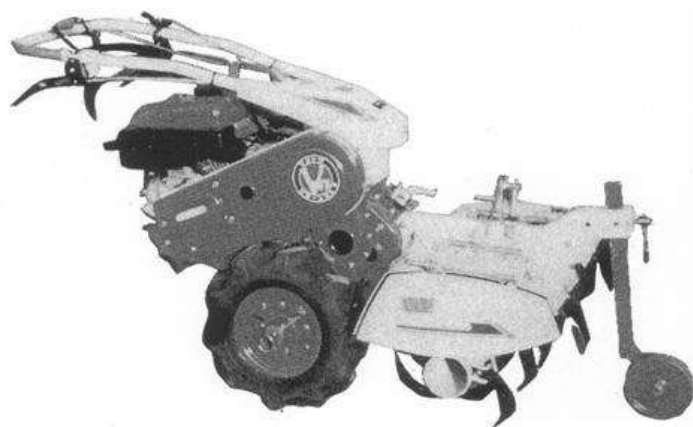


マメトラスーパーリターン

SRV35VX・SRV4VX使用説明書



マメトラ農機株式会社

ご あ い さ つ

この度は、数ある機械の中からスーパーリターンを御買上げ頂き誠にありがとうございます。

本機は小型耕耘機の専門メーカーとして永い歴史を持つ当社が、果樹園・桑園の中耕除草から草生栽培地・雑草退治作業・耕耘作業・ハウス内の床作り・畝間作業とアタッチメントを替えることにより、それぞれの作業に御満足頂ける様に設計され、最新の設備と材質によって作り上げた万能機です。

強馬力でしかも御婦人の方でも手軽に使えて、今迄にない数々の特長のある作業と安定性は皆様の御満足を頂けるものと確信致しております。

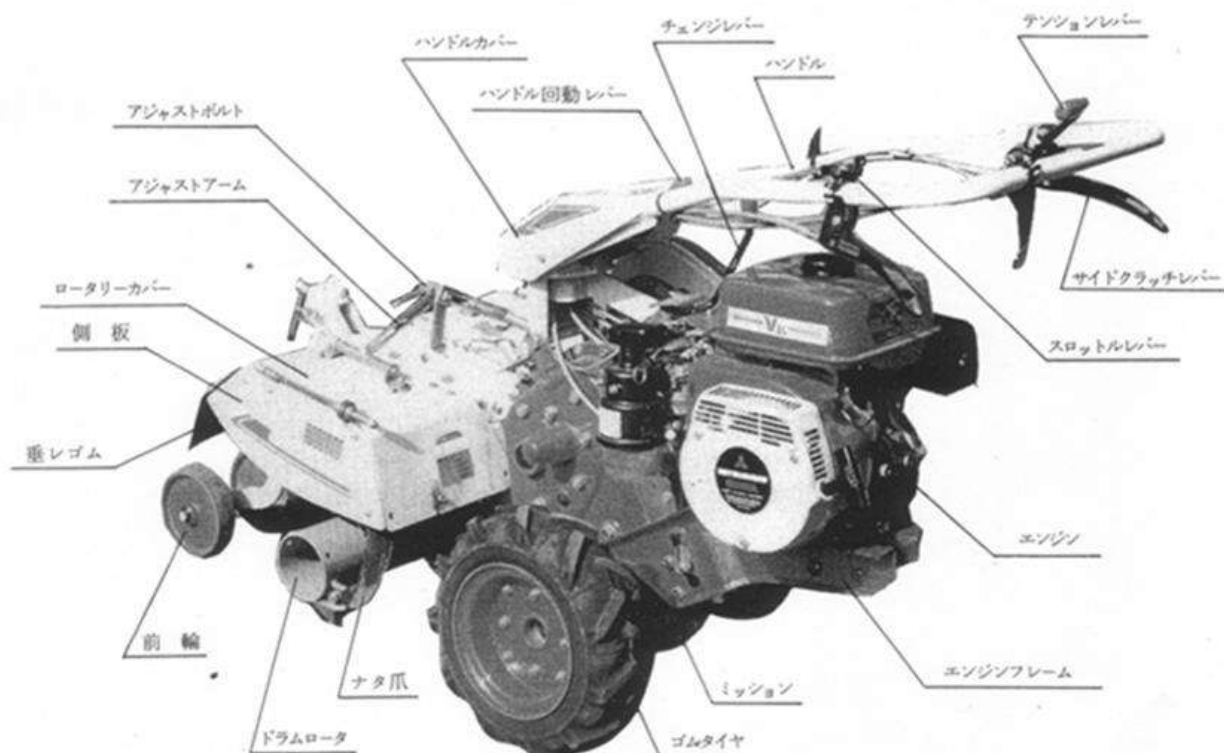
お買上げいただいたスーパーリターンを能率よく上手にお使いになり、長く寿命を保持していただくために御使用前にこの説明書をお読み頂いて正しい使用と手入れをして頂く様お願い致します。

また、当社では本機・作業機とも引き続き不断の研究を重ね、一層能率良く作業をして頂く様努力しております。従って一部改造することもあり、本説明書と多少の差異が生ずる場合もありますので、あらかじめ御承知下さる様お願い申し上げます。

安全な作業をするために

1. 過労・病気・薬物の影響・その他の理由で正常な運転ができないと思われる場合は機械作業に従事しないで下さい。
2. 適正な帽子や作業衣を使用し、衣服の一部や頭髮・手拭等が巻き込まれない様にして下さい。
3. 作業前には常に正常な機能が發揮できるように各部の点検整備をし、作業後にも次の作業のために点検整備を実施して下さい。
4. 機械の点検整備や草の巻付を除去する作業等は、必ずエンジンを止めてから行って下さい。
5. 作業機の着脱はできるだけ平坦な場所で行なって下さい。
6. エンジンを始動させる場合は必ずクラッチを切ってから行なって下さい。
7. 燃料を給油する場合はエンジンを停止し、火気は厳禁のこと。（くわえタバコでの給油は絶対にやめて下さい。）
8. 作業中は作業関係者以外の者に機械に近寄らせないで下さい。特に子供には注意が必要です。
9. 作業中は機械の周囲に注意し、安全を確認して下さい。特にバック作業時には足元の注意が必要です。
10. ハウス内の作業や屋内での点検整備では排気ガスがたまり易いので換気には十分な配慮が必要です。
11. エンジンのマフラーは非常に高温になりますので絶対に触れないで下さい。機械におおいをかける場合はマフラー等の高温部が完全に冷却した後で行なって下さい。
12. 定地作業の場合等にブーリヤベルトに手等が触れる恐れがない様に周囲に柵等を設けて下さい。

各 部 の 名 称



仕 様

本 機

本機型式	SRV35VX	SRV4VX			
寸 全 長	1410 ~ 1580 mm	1465 ~ 1575 mm			
寸 全 幅	610 mm	680 mm			
寸 全 高	770 ~ 1165 mm	850 ~ 1050 mm			
法 乾燥重量	108				
主クラッチ	ベルトテンション式				
変速段数	前進2段	L H R ₁ R ₂			
	後進2段	1.2 3.0 0.9 2.8			
外径400mmの車輛を使用時 (km/H)					
ロータリー変速	1	2	1	2	3
	rpm	rpm	rpm	rpm	rpm
	200	420	187.2	310	517
作業幅	500 mm		600 mm		
縦間距離	405 ~ 595 mm		335 ~ 605 mm		
車 輪	350 - 7 ゴム車輪		400 - 7 ゴム車輪		
伝導方式	<p>V-ベルトギヤー エンジン → 主軸 → 中間軸 チェーンギヤー → 回転軸</p>				
作業機	ドラムロータ、耕転刃受チューブ ハイローター、ラセン犁、溝掘				
P T O回転数	600 rpm				

エンジン

エンジン	GM 181 LN-357	GM 221 L-350
型 式	空冷4サイクル OHV式	
排気量	181 cc	215 cc
出力/回転数	4.5 Ps/1800 rpm	5.0 Ps/1800 rpm
	6.0 Ps/2000 rpm	7.0 Ps/2000 rpm
重 量	18.5 kg	19.4 kg
使用オイル	SAE20# ~ 30#	
起動方式	リコイルスタータ	
点 火 栓	NGK-BP5ES	
	DENSO W9	
燃料タンク容量	4 ℓ	
最少燃料消費率	230 g / Ps.Hr	
使用燃料	無鉛ガソリン	

各部の操作

チェンジレバー

カメの表示部(低速←→後退)……主クラッチを切らずに直接変速ができます。
ウサギの表示部(高速←→早い後退)……主クラッチを切ってから操作をして下さい。

2. 主クラッチレバー操作(第8図)

レバーを前に倒すとクラッチが入り手前に戻すとクラッチが切れます。又A部を親指で押してもクラッチが切れます。

エンジンの始動、ロータリー変速、走行変速の場合必ず主クラッチを切して下さい。

3. ハンドル操作(第9図)

ハンドルの操作は上下及び左右に移動が可能です。

- 1) ハンドルの上下調節はレバーを握り作業に合った位置でご使用下さい。
- 2) ハンドルの左右回動はレバーを下方に押し作業に合った位置でご使用下さい。

4. ロータリーカバーの調節(第10図)

ロータリーカバーは作業により上下に調節して下さい。土を横に出したい場合や補助カバーが欲しい場合等は側板を開いてご使用下さい。

オプションとして補助カバーも用意してあります。

5. 前輪の調節(第11図)

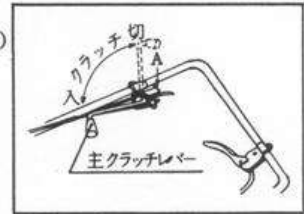
前輪を上下することにより作業深さを変えることができます。

前輪を上げる 耕深が深い。
" 下げる " 浅い。

6. ハイローター高畦マルチをセットの場合はビームアップが必要です。(第12図)

ビームの取付部をゆるめてステアの位置を組替へビームを上にあげて下さい。

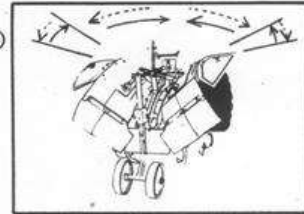
(第8図)



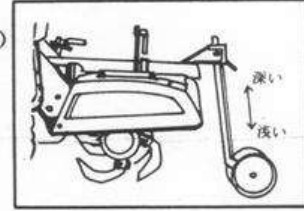
(第9図)



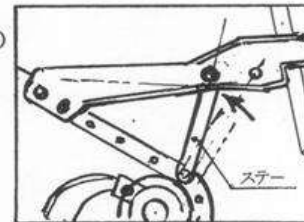
(第10図)



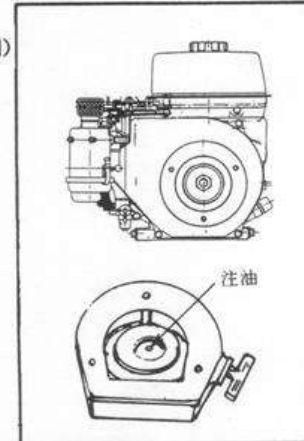
(第11図)



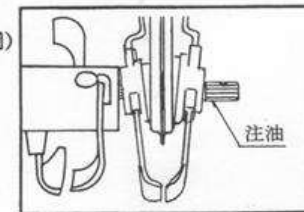
(第12図)



(第13図)



(第14図)



手入れと保管

1. リコイルスタータの手入れ(第13図)

ホコリの多い所で長時間使用しますと、リコイルのロープの戻り不良や爪の引掛り不良等が起きることがあります。エンジンからリコイル本体を外し、ガソリン等で内部を洗浄してから中心部の軸にオイルを2~3滴注油して下さい。

2. ドラムロータの掃除(第14図)

作業時ドラムロータに草が巻いた場合はチェンジレバーをニュートラルにしてロータリーを1~2秒高速回転させると良く取除けます。

ドラムロータを手廻して重い場合は一旦ドラムロータを外し、内側のゴミ等を取り除いて下さい。取り付ける場合はスプラインにグリスまたはオイルを注油して下さい。次に取り外す時にサビ付かず容易にできます。

3. ベルトの調節(第15図)

ベルトは耐熱・耐摩耗性の特殊ベルトを使用していますが、メインクラッチを入れ、テンションの張りが弱い時はベルトが伸びていますので、エンジンをずらし調整して下さい。

ベルトを張り過ぎると、クラッチを切ってもベルトが止まらず危険です。ベルト押えをベルトとのすきま3~5mmに調整し、確実にベルトが止まるようにして下さい。

保管中は主クラッチを切っておいて下さい。

4. 運転後の注意

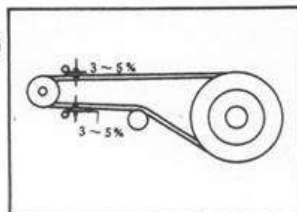
作業が終了保管する場合は、ロータリーカバーやドラムロータ、その他をきれいに掃除して保管して下さい。

主クラッチワイヤの調整・ベルトの引張り調整はほとんど必要ありませんが、下記部分に年1度注油して下さい。

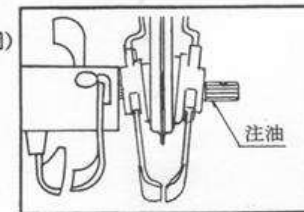
- イ) ワイヤ類
- ロ) 主クラッチレバー軸やテンションアーム等の可動部
- ハ) 車軸・耕耘軸・PTO軸

エンジンについては、エンジンの取扱説明書を参照して下さい。

(第15図)



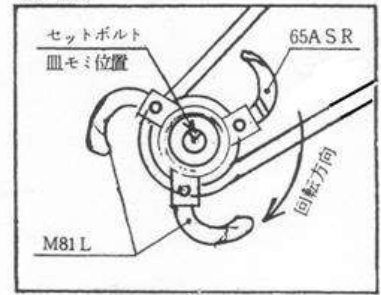
(第14図)



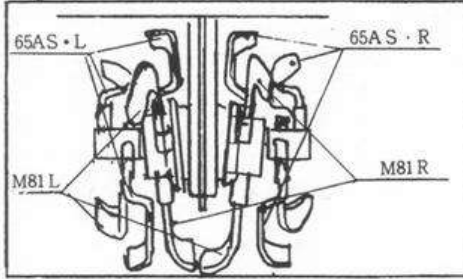
ドラムローターの組立

1. ドラムローターはクロスセンター方式ですからクロス部分の刃受とドラムのセット位置及び爪の取付が合っていないと残耕が出来たり、刃受部分が接触したりして回転不良となりますので必ず(第1図)の如く組み付けて下さい。
2. クロスセンター部は軸の皿モミ位置を基準にして曲り爪65ASR、M81L等図の位置に組み付けて下さい。(摩耗した場合の補修も同じ)爪の取付穴の所に打刻してあります。ドラムの取付けは(第2図)の如く皿モミ位置に合わせて押ボルトが合うようにセットして下さい。

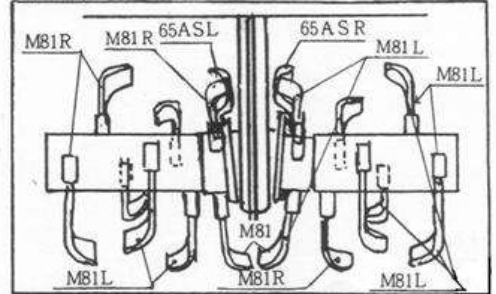
(第1図)



(第3図)



(第2図)



3. 32cmの溝掘り作業時はクロス部分は65AS-LRの曲り爪とM81LとRの爪を1ヶ所、左右入替えて外向にセットして使用して下さい。32cm幅の溝掘り作業ができます。また、左右外側の刃を65A- $\frac{1}{2}$ に変えることにより40cm幅に溝掘り作業ができます。(第3図)

耕耘作業には

ドラムローターを取外して耕耘刃受60をセットしますと耕耘作業が行えます。

運転前に!!

1. ミッションオイルの点検 (第5図)

ミッションオイルは工場より出荷時に入れてありますが、今一度注油口の蓋を外して確かめて下さい。口元まで入っていない場合は補給して下さい。

ミッションオイルの種類	SAE # 90のギヤーオイル
" 量	1.6 ℓ
" 交換時期	初回: 4~5ヶ月後 / 2回目以後: 年1回

2. エンジンオイルの点検 (第6図)

エンジンを水平にして正規油面まで補給して下さい。

エンジンオイルの種類	春~秋: SAE # 30 / 冬: SAE # 20
" 量	0.7 ℓ

3. エアクリーナの手入れ (第7図)

オイルバス式ですから運転前に必ずオイル受皿にオイルレベル迄エンジンオイルを入れて下さい。オイルレベルよりも多く入れると吸入効率が悪くなり、出力が低下します。

4. 各部の点検

運転前に必ず各部のネジのゆるみ、オイル、燃料、タイヤ空気圧等を点検して下さい。

始動時の注意

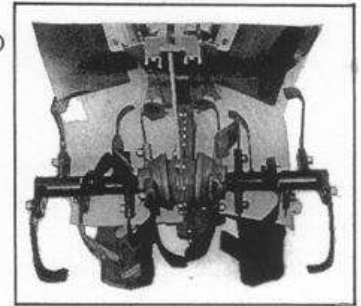
1. エンジンの始動

エンジンを始動するときは必ず主クラッチを切って下さい。

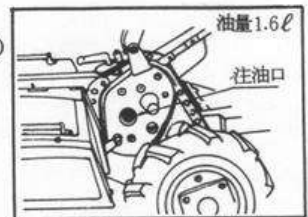
2. エンジン回転中の厳禁事項

- | | |
|--------------|------------------|
| イ) 燃料補給 | ニ) ロータリの草やゴミの取除き |
| ロ) ベルトカバーの着脱 | ホ) ロータリ刃の交換 |
| ハ) ベルトの調整 | |

(第4図)



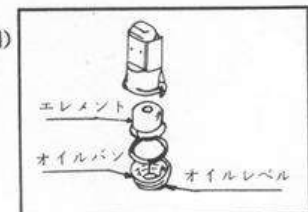
(第5図)



(第6図)

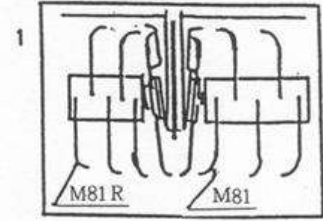


(第7図)

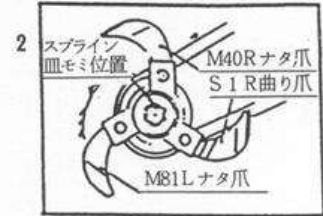


ドラムローターの組立

1. ドラムローターはクロスセンター方式ですからクロス部分の刃受とドラムのセット位置及び爪の取付が合っていないと残耕が出来たり、刃受部分が接触したりして回転不良となりますので必ず（第1図）の如く組み付けて下さい。



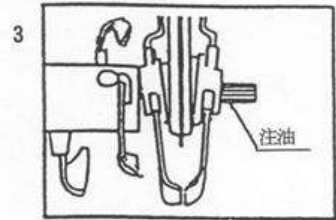
2. クロスセンター部は軸の皿モミ位置を基準にして曲り爪とM40, M81L等図の位置に組み付けて下さい。（摩耗した場合の補修も同じ）爪の取付穴の所に打刻してあります。ドラムの取付けは（第2図）の如く皿モミ位置に合わせて押ボルトが合うようにセットして下さい。



3. ドラムローターの掃除（第3図）

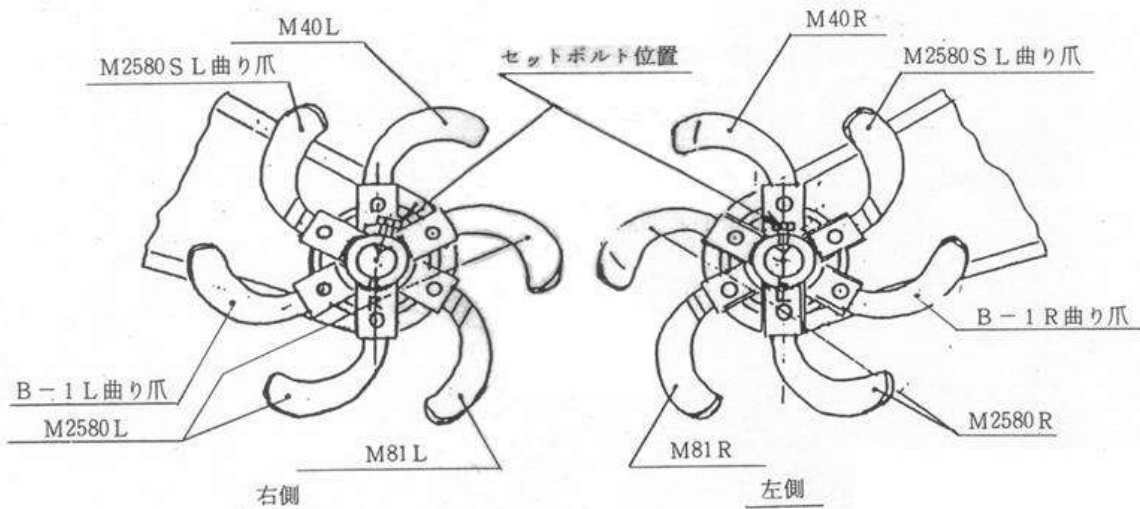
作業時ドラムローターに草が巻付いた場合はチェンジレバーをニュートラルにしてロータリを1～2秒高速回転させると良く取除けます。

ドラムローターを手廻して重い場合は一旦ドラムローターを外し、内側のゴミ等を取り除いて下さい。取り付ける場合はスプラインにグリスまたはオイルを注油して下さい。次に取り外す時にサビ付かず容易にできます。



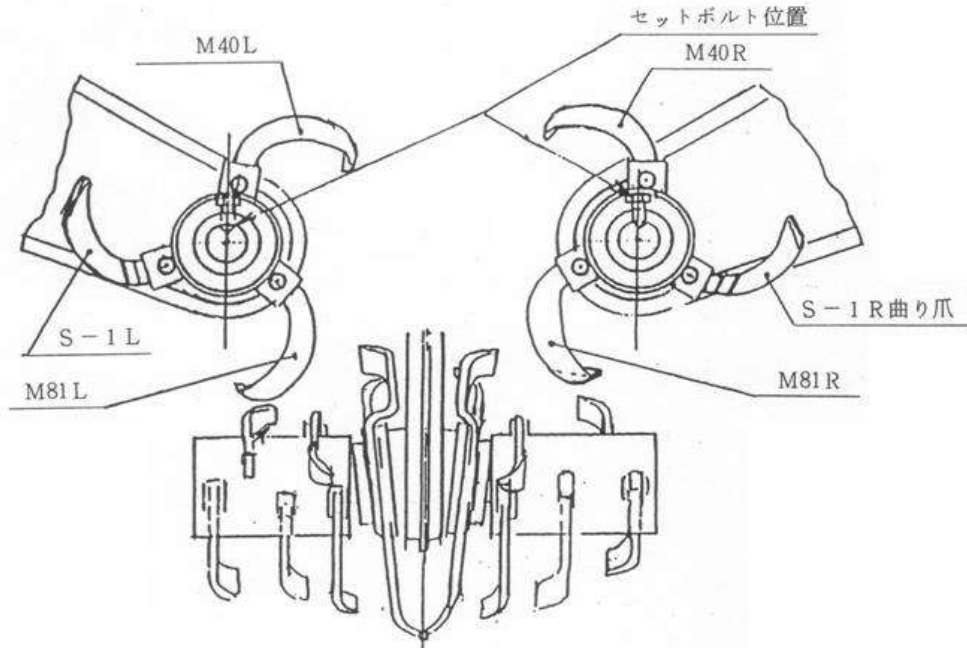
リターンカルチ S R V 35 V X 溝掘り刃受30爪配列

溝掘り30cmの爪の配列は下図の如くセットして下さい。補助刃受はL・Rがありますので右側にRをセットして下さい。



ドラムローター作業時の爪配例

ドラムローター作業時の刃の配列は、クロスセンター部は下図の如く



MRV 3XD
SRV 35VX クロスセンター・グリース給油のお願い
SRV 4VX

本機はローター部がクロスセンター方式（残耕ゼロ）になっています。いつまでも調子良く御使用頂くために、次の要領で定期的にグリースを給油して下さい。

グリースの給油 年1回又は100時間程度

本機はミッション内とクロス刃受部とは仕切られており、歯車転動になっています。

グリース給油方法

1. 左右ドラムローターのセットボルトを弛め、ドラムを外します。
2. クロス刃受のフランジ部2ヶ所のボルトを外し、1ヶ所にグリースニップルを取付けて下さい。
3. グリースポンプでグリース（軟かい物）シャシーグリースを給油し、一方の穴からグリースが出て来たらグリースニップルを外して、2ヶ所共ボルト締めをして下さい。左右同じ方法です。

側面キャップの取外しとグリース注入

クロス刃受とキャップのスキマをドライバー等で2～3ヶ所軽く打くと、キャップが外れます。内側を掃除後、スポンジシール及び中のギヤにグリースを塗付して、キャップを圧入（軽く打く）して下さい。

